

昌子の広場 第222報 小林昌子議会報告

和泉市無所属市民派議員

小林昌子

和泉市緑ヶ丘 2-13-10

自宅 Tel 0725-54-2626

Fax 020-4669-6920

事務所 Tel(Fax)0725-53-4451

Email masakokob@yahoo.co.jp

http://masako-hiroba.info/

ホームページもご覧下さい



- ・信太山浄水場廃止の布石 P1,4
- ・強い街ランキング P2-3

信太山浄水場廃止の布石 強い街ランキング

泉北水道企業団規約改定 信太山浄水場廃止の布石



6月定例会で泉北水道企業団の規約改定が提案されました。その内容は「企業団の解散に伴う事務の継承については、関係市が議会の議決を経てする協議をもって定める」というもので、泉北水道解散後の継承事務を円滑に行うためのもので、泉北水道の解散（信太山浄水場の廃止）を前提としたものです。

しかしながら今までともに泉北水道の解散を議論したこともないし、今回構成市の一つである泉大津市が規約の改定を提案していない事からもこの規約の改定は不当であり、泉北水道解散の布石として提案されたものとし考えられません。

そこで泉北水道の存続について改めて考えてみたいと思います。

<泉北水道存続に関する市の見解>

●基本的考え方

信太山浄水場の存続について市の見解は
信太山浄水場は、水不足の解消を目的とする暫定水源として昭和37年の送水開始以来、約60年間関係3市に安価な用水を供給してきたが、大阪府(現大阪広域水道企業団)の拡張整備により水不足が解消されたことから、信太山浄水場の本来の役割は終えている。

このことにより、信太山浄水場については用水供給事業の最終年度である令和2年度末をもって終焉する方向で検討を進める。

●施設の現況

用水供給事業として認められている令和2（2020）年度末までの稼働をめどに、これまで補修等を重ねて来ているが、配水池及びびろ過池の漏水やポンプの老朽化などが著しく、施設の維持については耐用限界を迎えている。

仮に令和2年度以降も自己水として浄水場を存続させる場合、急速ろ過方式（高度処理）での全面更新が条件となる。

●供給単価

現在供給単価は泉北水道が57.2円/m³、大阪広域水道企業団が72.0円/m³と泉北水道が安価に供給されているが、施設を使えるだけ使って廃止するという考え方から施設の補修を抑えてきたために実現したもので、今後施設の使用を続けるには施設の全面更新に約70億円が必要で、それに伴い泉北水道の供給単価は100.0円/m³と大きく跳ね上がることになり、用水単価面でも問題となる。

●災害時における自己水保有の必要性

今後の災害対策として、自己水を保有することはリスク管理上の価値は高いという意見もあるが、浄水場の全面更新により大阪広域水道企業団からの供給単価との比較では大きな差が生じることとなり、安全保障上自己水保有のために約70億円（税込み）を投資するという選択肢はない。

一方で、大阪広域水道企業団では災害対策として大和川を横断する耐震性水管橋を3ヶ所設置しており、加えて、さらに耐震強度の高い地中バイパス送水管の整備が平成31(2019)年度中に完了したことから、同企業団としてのリスク管理は順次整えられており、送水面においても泉北水道企業団より高い耐震安全性が確保されている。又災害時の飲料水については市内の配水池等で確保されている。

<私の意見>

市が泉北水道の廃止を主張するのは、老朽化した設備の抜本更新に約70億円を要し、巨額の投資を行って泉北水道を存続させることは出来ないの一点にあり、もともと暫定施設で恒久的に使用する設備ではないということです。

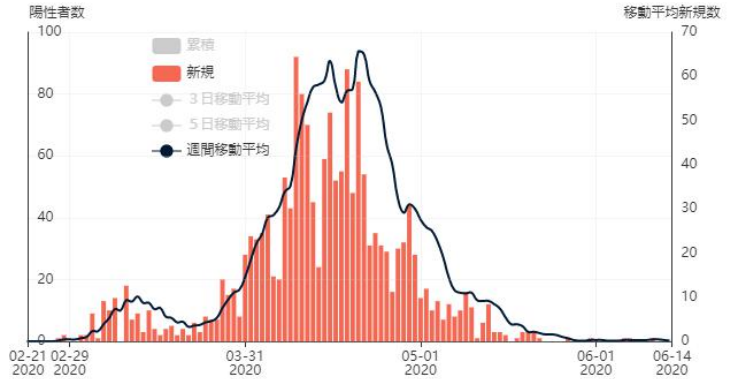
この試算は急速濾過方式の採用を前提としたものですが、現在の緩速濾過方式で安価に対策が不可能なのでしょうか?

施設の現況を考えると何らかの対応が必要と考えますが、果たして急速濾過方式の採用が避けられないのか(市の説明では急速濾過方式で70億円、緩速濾過方式で40億円としています)、供給単価のupを理由に自己水を放棄することが正しい判断なのか、大規模災害時に果たして応援給水が期待できるのか等慎重な検討が必要です。

ちなみに日本水大賞・国際貢献賞を受賞された信州大学名誉教授の中本先生は、泉北水道の水処理を急速濾過にしなくてもいくつかの対応をとれば、ほとんど維持管理に手がかからない施設にすることができると明言されています。命の水をそんなに簡単に結論づけることは許されません。私は現時点では信太山浄水場の廃止に反対です。

又緩速濾過方式の水はおいしい水です。満々と貯めた光明池の水をみすみす大阪湾に垂れ流すのですか。

コロナの状況



大阪府のコロナの新規感染者数を表したのが上表です。一時は一日100人近くもあったのが最近は発生無しの日が続いており、このまま収束するのではないかとの期待さえ持たれます。しかし安心は出来ません。北九州市では何日も感染ゼロが続いていたにも関わらず、クラスターが発生し第2波の到来ではと心配されています。決して気を緩めることは出来ません。

昌子の日記&予定

- 6/1 総合計画審議会傍聴
- 6/2 和泉中央駅会報配布
- 6/3 議会運営委員会傍聴
- 6/4 和泉中央駅会報配布
- 6/8 庁舎免振装置見学会
- 6/10 和泉府中駅会報配布、本会議
- 6/15 和泉中央駅会報配布、厚生文教委員会傍聴
- 6/16 都市環境委員会
- 6/17 総務安全委員会傍聴
- 6/18 和泉府中駅会報配布
- 6/19 議会運営委員会傍聴
- 6/22 北信太駅会報配布
- 6/23 信太山駅会報配布
- 6/25-29 本会議、一般質問
- 6/30 本会議(議案審議)



微生物浄化の水道 残して



信太山浄水場 廃止方針

高石、東大津、和泉の3市に水道水を供給してきた北水企業団の信太山浄水場をめぐり、市の意思が異なれば廃止される。市側からは、微生物を主とした浄水方式で環境に優しく、災害時の水確保にも有効と主張。一方、企業団は、老朽化が深刻なため、1年程度で廃止する方針だ。

水道の浄化方式

水道水の浄化には緩速濾過、急速濾過、膜濾過、活性槽の4つの方法がある。緩速濾過の初期には微生物の作用でゆっくり浄化する緩速濾過が主だったが、現在は全国的に計画浄水量の8割を占め、緩速濾過は4%弱。府内では信太山浄水場以外に、高槻、河内長野、貝塚の3市と能勢町に計6カ所あるが、規模は小さい。

地元市議ら「改修を」

今年7月、3市の市議約4人が、中本信二・信太山浄水場長とともに和泉市の信太山浄水場を視察した。中本氏は、微生物の働きで水を浄化する「緩速濾過」の研究の第一人者。1966年に浄水を始めた信太山浄水場、府内では希少な緩速濾過方式だ。2人はいくつかの浄水場をなす手はない。砂の層をくし、生物の働きをよすれば水質もよると主張する。中本氏も、ただ、緩速濾過は、同浄水場廃止の方針だ。同企業団は、同浄水場を改修する方針。未来を動かす前向きな取り組みは、望ましい。

大阪府の人口に占める信太山浄水場の人口は約10万人。信太山浄水場の浄水能力は約100万リットル。信太山浄水場の浄水能力は約100万リットル。信太山浄水場の浄水能力は約100万リットル。

《事務所行事》いずれも小林昌子事務所で
 連絡先 自宅 TEL 0725-54-2626
 事務所 TEL 0725-53-4451
 (事務所 緑ヶ丘1-3-15)

パソコン講座
 ・第2、第4週の火曜 10時~12時、
 同じく 木曜 14時~16時
 市政相談会(事前にご連絡下さい)
 ・第2、4水曜日 20:00~21:30

泉州地域が全般に低位 東洋経済新報社調べから
和泉市 強い街ランキング大阪府内で十八位と中位に

順位	都道府県名	市名	総合評価	各指標の順位		
			偏差値	産業	財政	人口
1	愛知	刈谷市	62.74	2	11	61
2	愛知	豊田市	62.29	199	6	2
3	愛知	安城市	61.33	25	10	72
4	愛知	みよし市	61.25	30	5	96
5	愛知	東海市	60.35	3	32	52
6	茨城	神栖市	60.30	51	31	52
7	千葉	浦安市	60.25	10	19	157
8	愛知	大府市	59.69	157	29	44
9	千葉	印西市	59.66	623	22	18
10	東京	武蔵野市	59.63	95	8	177
32	大阪府	大阪市	57.50	4	309	131
34		吹田市	57.44	113	94	130
61		茨木市	56.07	203	105	228
75		豊中市	55.66	351	101	250
84		箕面市	55.42	593	98	233
94		摂津市	55.31	119	276	252
109		池田市	55.06	641	112	246
252		東大阪市	52.84	221	395	546
269		大阪狭山市	52.62	1504	284	337
277		堺市	52.49	519	362	552
307		高槻市	52.05	1214	265	534
311		泉佐野市	51.98	301	1038	329
318		泉大津市	51.87	222	793	504
322		守口市	51.81	530	922	340
325		高石市	51.73	330	945	415
328		枚方市	51.71	1200	281	600
350		八尾市	51.42	706	650	480
363		和泉市	51.17	1413	429	528
380		寝屋川市	50.94	444	491	816
390		門真市	50.75	96	1096	730
400	四條畷市	50.61	1605	458	577	
421	大東市	50.39	1108	598	659	
478	柏原市	49.56	1094	607	869	
483	交野市	49.52	1617	990	487	
491	富田林市	49.34	1565	477	897	
511	貝塚市	49.04	821	1026	803	
515	岸和田市	48.92	1133	1161	668	
523	藤井寺市	48.78	1373	996	743	
564	羽曳野市	48.24	1479	1076	793	
598	松原市	47.83	1276	1403	753	
625	泉南市	47.45	1512	1438	736	
626	河内長野市	47.44	1638	666	1244	
748	阪南市	45.40	1691	1524	1158	
792	北海道	夕張市	39.71	1027	1718	1701

都市データパック2019(東洋経済新報社)より



目を総合して評価したものです。

全国では愛知県が上位を占めており、自動車関連企業の影響を受けたものと思われます。

和泉市は全国で363位、大阪府内では18位と中位にあります。高位は北摂地域の自治体が占めており、それに比べ近隣の岸和田市、阪南市、泉南市、貝塚市はいずれも低迷しています。

▼3つの観点と算出指標(全国792市対象東京区部を除く)

- [産業] ○人口当たり農業産出額 ○人口当たり製品出荷額 ○人口当たり卸売業・小売業売上額 ○人口当たり情報通信業売上額 ○人口当たり宿泊業・飲食サービス業売上額
- [財政] ○経常収支比率 ○公債費負担比率 ○財政力指数 ○納税者一人当たり課税対象額 ○人口当たり地方税収入額
- [人口] ○人口増減率 ○生産年齢人口比率 ○15~49歳女性人口当たり出征数 ○転入・転出人口比率 ○世帯当たり新設住宅着工戸数

▼評価方法 15の指標それぞれについて平均値を50とする偏差値を算出し、その平均を総合評価とした。同様に、産業、財政、人口は、当該指標の偏差値を平均したもの。

		刈谷市	和泉市	大阪市
基本情報	面積(Km ²)	50.39	84.98	225.30
	人口	150,883	186,156	2,702,432
	平均年齢	41.4	43.7	45.8
福祉	高齢人口比率(%)	19.7	23.76	25.3
	生産年齢人口比率(%)	68.7	61.9	63.4
	保育所利用児童数(人)	2,389		53,120
	待機児童数(人)	8		390
公共料金	介護老人施設定員数	606	555	19033
	水道料金(1ヶ月)(円)	2,484	3,312	2,609
	下水道料金(1ヶ月)(円)	2,052	2,457	1,611
	介護保険料(円)	5,200	6,380	7,927
財政力	一人当たり税収額(万円)	23.2	13.9	25.0
	一人当たり歳出額(万円)	39.8	36.8	64.4
	経常収支比率(%)	79.5	98.8	98.3
	実質公債比率(%)	▲2.3	4.1	5.7
	将来負担比率(%)	0	0	65.2
	財政力指数	1.37	0.76	0.93
	自主財源比率(%)	75.6	54.3	55.1
生活基盤	交付税依存度(%)	0	10.3	3.0
	一人当たり地方債残高(万円)	5.9	30.0	76.6
	完全失業率(%)	2.5	6.2	5.7
	納税者一人当たり所得(万円)	402.3	301.2	337.3
	持家所帯比率(%)	57.1	60.8	44.0
	一万人当たり病床数	106.6	102.2	122.1
	一万人当たり医師数	23.3	16.0	34.7
生活基盤	介護老人施設定員数	606	555	19033
	公共下水道普及率(%)	97.3	96.3	100.0
	千人当たり交通事故発生数	5.9	2.9	4.6

全国でトップの刈谷市と府内のトップの大阪市と和泉市を比較したのが左表です。都市の成り立ちの違いなど構造的格差がベースにあります。課題も見えてきます。

●圧倒的に違う税収
刈谷市、大阪市の一人当たり税収額は和泉市の2倍近くもあり(刈谷市の税者一人当たり所得は1.3倍)、この差は如何ともしがたく、経常収支比率などの財政指標は大きく見劣りします。刈谷市は実質公債比率がマイナスで自主財源比率も高く完全に借金に依存しない財政が確立しています。

●刈谷市とはどんな町(刈谷市HPより)
刈谷市は愛知県のほぼ中央に位置し、西三河平野西部にある衣浦湾へ注ぐ逢妻川の下流に面しています。市の中央部には最先端技術を駆使した自動車関連産業の工場が並び、活気に満ちあふれています。古くは刈谷城の城下町として栄え、時代の先駆けとなる多くの人材を輩出してきました。このような長い歴史の中で、刈谷市は産業と文化が調和したものづくりのまちとして飛躍的に発展してきました。先人の創意工夫とたゆみない努力を受け継ぎ、将来にわたり持続可能な地域社会を形成するため、市民・企業・行政が共に支えあう「共存・協働のまちづくり」を推進し、将来都市像「人が輝く 安心快適な産業文化都市」の実現を目指しています。

